

# 平成20年度 事業計画

財団法人 日本ハンドボール協会

## 平成20年度事業計画

本年度はオリンピックイヤーであります。日本ハンドボール協会は、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、メダル獲得の実力をつける事に向けて、総力を結集して取り組んでまいります。その為に、

- 〔1〕マーケティング内容の充実を図り、全国の加盟団体・企業等の協力を得て財政基盤の確立を図ります。
  - 〔2〕事業を滞りなく実施するために、ハンドボールに携わる役員の育成と、協会の事務局体制の拡充・強化に取り組めます。
  - 〔3〕競技：各大会の「運営マニュアル」を充実させ、たくさんの皆様に見て頂ける、ファンを第一主義とした大会運営に取り組めます。
  - 〔4〕レフェリーの育成・指導は急務であり、審判技術の向上に更に努力致します。
  - 〔5〕普及につきましては、「指導者育成事業」、「小学生・中学生大会の充実」、「ナショナルトレーニングシステムとの関係」、「マスターズ・車椅子大会の充実」、「女性委員会の促進」に取り組めます。
  - 〔6〕「がんばれ10万人会」は次のステップに入ります。
  - 〔7〕強化：東京にNTC(ナショナル・トレーニング・センター)が出来たことにより、1年365日日常時使用・宿泊が可能な施設となりました。それをうけて「JHAジュニアアカデミーを設立」し、各カテゴリーから常にNTCに集結させ、ジュニア層からの強化を加速させて行きます。さらに日本代表チームは4年、8年後を見据えたスタッフの人選を図り、目標に向かって活動してまいります。
  - 〔8〕国際：昨年度永年に亘る「アジアの正常化」への努力が実り、突破口が開かれました。本年度からは、さらに粘り強い地道な努力が必要となります。また、本年度に行われるAHFの役員改選に向けても積極的に活動してまいります。
  - 〔9〕広報：昨年度大変注目された経験を踏まえて、マスコミ・HP・機関誌等、内外の広報活動の充実をさらに図ってまいります。
  - 〔10〕日本リーグ：日本リーグは国際競技力向上のベースであり、ハンドボールのトップゲームを数多くファンの前で披露し、「プロの興業集団」を目指します。
  - 〔11〕環境：環境委員会を中心に、環境問題にも積極的に取り組んでまいります。
  - 〔12〕総合企画：昨年立ち上げた総合企画室を中心に、全体の関係と協会の方針・目標の徹底のスピード化を図ってまいります。又、毎年定期的に国際試合「ジャパンカップ」を企画開催し、強化の一環とします。
- 以上、総力を挙げて地道に活動を展開してまいります。

## 1. 普及・指導に関する事業

### 普及関係

#### 【基本方針】

1. 少年チームの増加促進
2. 指導要領取り入れへの働きかけ
3. 中体連との連携強化
4. 生涯ハンドボール体系の確立
5. ビーチ国内大会開催地の拡大

#### 【重点施策】

1. 市町での少年チーム交流大会の促進
2. 指導者育成と研修体制の充実
3. 中学校チームへの指導資料提示、個人登録の徹底
4. ブロックマスターズ大会の実施とスポーツマスターズへの分離参加検討
5. ビーチハンドボール全日本代表選手の定義と選考基準の明確化  
審判講習会の開催

### 指導関係

#### 【基本方針】

1. 指導者の育成（各指導員養成の推進）
2. 海外情報収集（海外派遣選手団等より）
3. N T S との連携
4. 指導教本の作成

#### 【重点施策】

1. 公認コーチ専門講習会
2. N T S ブロック・センタートレーニングでの実施
3. 公認指導者組織の整備
4. U - 1 9 までの指導体系の確立
5. ハンドボール指導理念の確立

## 2. 競技運営に関する事業

#### 【基本方針】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる
2. 大会システムの再編を企画する
3. 日本体育協会との連携を保ち、国民体育大会の改革に対応するための整備を図る

#### 【重点施策】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の運営にあたり、主管団体との調整を図

- った組織的運営にあたる
2. 競技役員の資質向上を目指し、養成を図るとともに、競技運営マニュアルの改訂を図り、共通理解を深める
  3. 競技用具の改良を目指し、製造業者と懇談をする
  4. 証紙、検定証、証布が適正に貼付されているか、継続的な抜き打ち検査を実施する
  5. 競技者登録人口として10万人登録を目標とする

### 3. 国際に関する事業

#### 【基本方針】

1. 世界各国のハンドボール連盟との連携と貢献
2. 日本ハンドボール協会および連盟やチームなどの国際的活動支援
3. 国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）
4. 国際会議への参加と支援

#### 【重点施策】

1. アジアハンドボール連盟主催大会の正常化
  - (1) アンフェアな運営をなくすためにIHF管理の下で実施するための諸施策の推進・策定
  - (2) 東アジア連盟主催の公式試合・会議などの支援
  - (3) 東南アジア・南アジア諸国との連携とそのサポート
  - (4) アジア連盟選挙策と諸会議への参加とそのサポート
2. IHF・AHFとの連携と諸会議への出席
3. 日本代表チームなどの海外国際大会の事務的なサポート
4. 国際会議の開催と支援
5. 外国の情報収集とその活用
6. 海外移籍の事務的サポート

### 4. 競技規則(審判)に関する事業

#### 【基本方針】

1. 競技規則の正しい運用
  - (1) 「審判員の目標」の徹底
  - (2) IHF作成のDVDとレフェリー指導者に配布したDVD等を活用させる
2. トップレフェリーの資質の向上  
全国大会だけでなく各地区の試合に間に合うように研修会時期の検討
  - (1) 都道府県審判長会議を4月に、トップレフェリー会議を2・3月に開催する
  - (2) IHF・AHFの講習会にコンチネンタルレフェリーを参加
3. オーダーメイドの審判指導

- (1)審判員評価の活用
- (2)競技規則必携の活用
- (3)Y R P(ヤングレフェリープロジェクト)の実質的な運用(N T S との連携)

#### 【重点施策】

1. 都道府県審判長会議を年度当初の少しでも早い時期に開催する  
4月から各地で大会が始まるが、年度当初にレフェリーを直接集めることが出来ないので、審判長を集め指導内容を徹底する
2. トップレフェリー会期変更  
トップレフェリー会議を全国大会前ではなく、4月の各地区大会に間に合うように2・3月に移行する。
4. レフェリー講習会の内容充実、正しい運用の意識付け  
レフェリーだけでなくトレーナー、選手にもルールを意識させる。各地区のレフェリー講習会にはトレーナー、選手も参加できることを知らせる。
5. 審判員登録の徹底
6. Y R P出身レフェリーの積極的起用

### 5. 競技力向上(強化)に関する事業

#### 【基本方針】

1. 「北京オリンピック出場へアジア予選再試合と最終予選突破」
2. 「2012 ロンドン・2016 東京オリンピック出場：上位入賞メダルへ挑戦」本気で出場する気構え！
3. オリンピック出場のための代表およびジュニア層の強化と同時に、協会に関して「構造改革」を継続して実施する。平成 20 年度は、北京オリンピックでの上位進出と男女代表チームが最終予選に回った場合、IHF 最終予選が開催されるので、重点強化を実施する。NTS をシステムとして「発掘・育成・強化・指導」について、競技者育成技術委員会を調整機関として、各委員会とセクションを超えた協力体制をとって、将来にわたりオリンピック・世界選手権に出場できる体制を推進していく。以上を強化連携していくためのサポートを実施する。

#### 【重点施策】

1. 男女日本代表チームの特別強化施策実施(北京オリンピック出場権獲得あるいは最終予選出場権獲得が条件)
2. 2012 ロンドン・2016 東京オリンピックを目指したジュニア層の重点強化  
【ナショナルトレセンを利用したアカデミー(代表選手の集約と育成)検討】
  - (1) 男女ジュニアチームの専任コーチ配置とその環境の確保
  - (2) 定期的な海外遠征と国内強化合宿の実施
  - (3) 所属チームの訪問と連携
  - (4) 徹底的な体力向上
  - (5) 栄養管理の指導とその実戦

3. ナショナルスタッフチームの発掘強化育成  
トップコーチの発掘育成(海外研修・トップコーチセミナー)と就業サポート検討
4. NTS と連携して、選手の選考方法の再構築と年齢カテゴリー別チーム体制継続
  - (1) 日本の弱点である体格を補うための発掘施策検討構築実施(地域のタレント発掘との連携)
  - (2) 少数精鋭・重点強化体制の着実な運営
5. 日本リーグチームとの連携強化
6. 情報・科学サポート
7. 医事専門委員会のサポート
8. アンチドーピングの徹底

## 6. 機関誌発行に関する事業

### 【基本方針】

機関誌発行を通じ、日本協会全体の情報を共有化し、全国のハンドボール関係者の意識の統一を図り、ハンドボール界の発展に寄与する。

### 【重点施策】

1. IHF・AHF・EAHF 情報のタイムリーな提供、協会の方針、理事会・各委員会・の協会活動の情報発信、各連盟・都道府県協会情報提供等を掲載する
2. 企画記事として、一定の枠を確保し自らの取材・校正による記事の出来る体制を検討する
3. インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報を高めることで記事の質の向上に取り組む
4. 今後の世情も踏まえ機関誌のあり方を見直し、機関誌発行回数と発行対象者を再確認し、一層の内容の充実について検討する
5. 「世界を奪い返す」をメインテーマに、日本協会全体の考え・動きを伝える

## 7. 企画に関する事業

### 【基本方針】

1. 日本協会の有姿を想定し、具体的活動を示す
2. 中長期的観点からの全体最適を常に考える
3. 組織としての行動力、スピード、柔軟性を発揮する
4. 業務取り組み姿勢として、経営観、事業観を意識する
5. 協会の社会的責任を常に意識した対応を図る
6. 各本部、各プロジェクトに共通し、統合して考えねばならない問題点の抽出とまとめを行う

### 【重点施策】

1. 人材基盤、業務基盤、総合インフラ整備
  - (1)各事業部や機能部門に対し、組織横断的条件整備(人事、財務、経営情報、管理指導、業務プロセス等)
  - (2)総合インフラ(情報システム等)整備
  - (3)強化に関しての大会企画
2. 具体策
  - (1)財務体質改善の具体策作成
  - (2)強化の具体策(奨学金制度、強化システム、日本リーグ連携)
  - (3)人材確保対策(全国、国際的人材)
  - (4)ジャパンカップの常設を企画

## 8. 広報に関する事業

### 広報事業

#### 【基本方針】

1. ハンドボール情報の発信の拡大を図る
2. 協会広報システムを構築し、スムーズな運営を図る
3. マスコミとの交流を拡大する
4. インターネット情報の充実・拡大を図る
5. 協会事業の周知徹底を図る
6. 記録整備のため大会撮影を積極的に行う

#### 【重点施策】

1. 年間活動計画を作成し、実施する
2. 過去の記録をデジタル化する
3. ホームページの内容の充実を図る(日本協会・日本リーグ)
4. マスコミとの交流を密にする
  - ・記者発表・記者会見・プレスリリース・定期懇談会の実施、回数アップ
5. トップリーグ連携機構との連携を図り、共同で活動する
6. インターネットと機関誌の連携・整備を行い、内容の充実と効率のよい広報活動を行う
7. 協会内組織の充実(担当者の複数化・役割分担)

### インターネット

#### 【基本方針】

1. 日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する
2. インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化・スピードアップ・情報量の拡大を図る
3. 新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する

### 【重点施策】

1. 日本協会ホームページの充実
  - (1) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実
  - (2) 試合結果速報用掲示板の運用
  - (3) 新たな情報発信方法の検討と試行（携帯サイトの立ち上げの検討と試行）
2. ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
  - ・より良いシステムの検討、人材の補強等

## 9. 財務・会計に関する事業

### 【基本方針】

平成 20 年度も、平成 19 年度に引き続き財政状況を取り巻く環境は、厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を取り組まなければならない状態である。収入面ではマーケティング委員会を中心となるのはもちろんであるが、各委員会でも積極的に財源確保に取り組む必要がある。支出面においては、集中と選択を念頭におき、更に効率の良い運営を推進して行く。

また、ロンドンオリンピックに出場するための施策として、アジア予選の日本開催を見据え、財源確保に取り組んで行く。

### 【重点施策】

1. マーケティング委員会、各委員会を中心とした各種運営費の財源確保
2. ロンドンオリンピックアジア予選、日本開催誘致、運営に向けた財源確保
3. ロンドンオリンピック出場に向けた応援キャンペーンの推進。

## 10. 日本リーグに関する事業

### 【基本方針】

1. 地域と共に発展する日本リーグを目指す
2. 普及活動への連携支援を行う
3. 国際競技力向上への強化活動を全面的にバックアップする
4. 日本リーグ中期ビジョンをさらに具体化する
5. メディア対策をさらに充実させる

### 【重点施策】

1. 事業力・興行力アップの更なる充実を図る
2. 財政の充実を図る（収益力をアップさせる）
3. 日本リーグトータルシステムの更なる充実（地域リーグ・都道府県リーグ）
4. 開催地責任者研修会の充実
5. 研修会の充実

- 6．審判の確保・育成（チーム審判制度、若手審判育成、全審判の研修）
- 7．リーグ活性化活動の充実を図る
- 8．日本リーグファンサービスの充実（新たなファンサービスを行う）
- 9．日本リーグチーム力アップに取り組む（人材確保・指導者養成等）
- 10．ナショナル活動に強力バックアップを行う
- 11．メディアへの露出の充実

## 11. 総務に関する事業

### 【基本方針】

平成20年12月1日から施行される新公益財団法人へのスムーズな移行を図ると共に、事務局のパワーアップを図り総務委員会案件はもとより、他委員会案件の積極的なサポートを行い事業進捗のスピード化を図る。

### 【重点施策】

- 1．公益財団法人への移行を踏まえた事務機構の見直し
- 2．事務局のパワーアップ化（人員、役割等々）
- 3．記録の整理・充実
- 4．環境保全への積極的な啓蒙と実践活動
- 5．個人情報保護法の遵守と徹底

## 12. マーケティングに関する事業

### 【基本方針】

日本ハンドボール協会の持っているバリュー（価値）の分析を行い、日本協会の収入の大きな柱であるマーケティング収入の確保を図る。マーケティング収入の確保のため、既協賛企業はもとより新規企業の開拓、各本部のプロジェクトの事業課を進める。また、それに伴う諸規程、諸ルールの整備を行う。

### 【重点施策】

- 1．事務局の専門事務局員を置く
- 2．オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大に取り組む
- 3．協賛企業の確保と拡大を行う（既協賛企業、新規協賛企業）
- 4．スポンサー感謝の集いを企画する
- 5．マーケティング収入を2,500万円とする
  - (1) 協賛金(大会事業、オフィシャルスポンサー)
  - (2) ナショナルユニフォーム広告他
  - (3) 物品販売、その他
- 6．オリジナルグッズ、DVD 他の企画を行う
- 7．肖像権、ユニフォーム、ボード広告等の諸規程の整備を行う

- 8 . 協会協賛キットの改訂版を作る
- 9 . 協賛主催大会のマーケティングを主管部門に指導し協賛金の拡大推進を図る
- 10 . JOC、トップリーグ連携機構とのマーケティングと連携・協力をして、マーケティング力の向上に努める
- 11 . 外部メンバーを導入し、マーケティング力向上を図る

### 13. 『がんばれ10万人会』サポート会員に関する事業

#### 【基本方針】

「がんばれハンドボール10万人会」におけるサポート会の拡大・規約の見直し・活動の再検討等を考慮し、日本協会と都道府県協会と連携し、サポート会の組織化を図り、サポート会へのサービスを拡大する。

#### 【重点施策】

- 1 . 都道府県協会サポート会を全国組織にすると共に都道府県協会において、ファミリー・グループ会員の促進を図る
- 2 . 会員への情報・サービスを拡大する
- 3 . 日本代表選手の家族、OB、OGのグランド会員入会を促進する